

第121回 中部圏知事会議 議事録

日 時：2024年10月30日（水）13:45～16:12

場 所：セラミックパークMINO 1階「国際会議場」

【青山 愛知県政策企画局長】

それでは皆様おそろいでございますので、ただいまより第121回中部圏知事会議を開催いたします。

会議に先立ちまして、報道関係者の皆様をお願いいたします。

知事席周辺での撮影は、座長が選出されるまでの間といたします。以降の撮影は報道席からお願いをいたします。

また、今回の会議はペーパーレスで実施をいたします。資料一式はお手元のパソコンに保存しておりますので、そちらを御覧ください。

本日の出席者でございますけれども、馳石川県知事、杉本福井県知事、古田岐阜県知事、鈴木静岡県知事、大村愛知県知事、佐藤富山県副知事、野呂三重県副知事、江島滋賀県副知事、中村長野県企画振興部長、武田名古屋市総務局担当局長の御出席となっております。

会議の開催に当たりまして、開催地であります地元多治見市の高木市長がお見えでございますので、御挨拶を頂戴したいと存じます。

【高木 多治見市長】

多治見市長の高木貴行と申します。

本日は、第121回中部圏知事会議が開催されますことを心からお祝いを申し上げます。

今回、多治見市が中部圏の知事の皆様をお迎えできることを大変光栄に感じております。多治見市民を代表して心からお礼と歓迎を申し上げます。

多治見市は、岐阜県の南東部に位置する面積が91.25平方キロメートル、人口約10万5,000人のまちであります。県内では、岐阜市、大垣市、各務原市に続いて4番目の人口を有しております。四方を小高い山に囲まれた盆地の中に位置し、市の中心部を東西に一級河川の土岐川が流れ、南北から中小の支川が流入しております。盆地特有の気候で夏季の日中は猛暑であり、2007年には当時の国内最高気温となる40.9度を記録いたしました。

当市は1,300年の長きにわたり、陶磁器やタイルの産地として発展をしてきました。多治見市を含む土岐市、瑞浪市、可児市で作られる焼き物は美濃焼と呼ばれており、毎日の食卓を彩る陶磁器をはじめ、志野、織部、瀬戸黒、黄瀬戸などの伝統技法を用いた陶器など、豊富な種類がございます。皆様が午前中に御視察いただきました笠原町は、タイル生産量日本一の地域であります。

岐阜県では古田知事を筆頭に、オール岐阜の体制で地域の課題解決、発展に努めております。今回の会議で中部圏域の連携を一層強め、オール中部で当市を含む地域全体の豊か

な未来につながることを願っております。

以上をもちまして、開催市の市長としての歓迎の挨拶に代えさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【青山 愛知県政策企画局長】

ありがとうございました。

高木市長におかれましては、ここで御退席されます。

次に、開催県である岐阜県の古田知事から御挨拶をお願いいたします。

【古田 岐阜県知事】

御挨拶に先立ちまして、まず本年1月の能登半島地震及びこの夏の豪雨によってお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げる次第でございます。

馳石川県知事におかれましては、能登半島地震以来、災害支援の陣頭指揮を執っていただいております。一日も早い復旧・復興に向けて、私どももできる限りのサポートをさせていただきたいと思っております。

それでは、本日の中部圏知事会議でございますが、お忙しいところようこそお越しいただきました。心から歓迎申し上げます。

今日は陶磁器尽くしの御案内でございましたけれども、いろいろと熱心に御覧いただきまして、誠にありがとうございます。

岐阜県での開催は平成30年以来ということで、6年ぶりでございます。今年は、岐阜県は文化イヤーと言っておりますけれども、この夏には高校生の総合文化芸術祭ということで、秋篠宮家の悠仁様も含めて御家族おいでになりました。また、今月の14日から42日間、国民文化祭、そして障害者の全国芸術・文化祭を開催しております。また、これらの関係で県を挙げて文化イヤーといいますか、文化への取組を深めていこうということでやっているところでございます。

この会場でも、実はこの入り口のところに9県の文化・観光の展示コーナーを設けまして、中部圏の魅力を発信させていただいたところでございますが、この国民文化祭、岐阜県だけではなく、中部圏、オールジャパン、さらには世界に開かれた文化の祭典ということで進めておるところでございます。先ほど御覧いただきました陶磁器フェスティバルもその一環ということで、世界に開かれた文化交流の一端を感じていただければ誠に幸いです。

本日は、こうした文化についても御議論いただくほか、来年に迫った大阪・関西万博の機運醸成、あるいは南海トラフ地震への対応など、喫緊の課題も踏まえた議事を予定しております。限られた時間ではございますが、皆様には忌憚のない活発な御議論をいただきたいと思っております。

また、多治見市には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。
それでは、よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

【青山 愛知県政策企画局長】

ありがとうございました。

続きまして、中部圏知事会会長の**大村愛知県知事**から御挨拶を申し上げます。

【大村 愛知県知事】

皆さん、こんにちは。愛知県知事の大村秀章です。

それでは、私からも一言御挨拶を申し上げます。

本日は、第121回の中部圏知事会議ということで、古田知事さんをはじめ岐阜県の皆様には、会議の準備、また行き届いたおもてなしでお迎えをいただきまして、誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

さて、まず冒頭、各地での自然災害等について申し上げます。

今年元旦の能登半島地震に続きまして、また先月には能登半島を中心に記録的な大雨ということでございました。また、8月には太平洋側も記録的な大雨でありまして、私の愛知県も8月末に被害がありました。土砂崩れで3人亡くなるという痛ましい事故もありました。また8月には、運用後初となる南海トラフ地震臨時情報も発表されました。そういう中で、まずは馳知事さんをはじめ石川県の皆様にはお見舞いを申し上げたいと思いますし、私ども同じ中部圏域の仲間として、引き続き皆さんと一緒に全力でまた応援をしていきたいというふうに思っておりますので、今後ともよろしく願いを申し上げます。

そして、防災対策、大変重要性が高まっておりますので、また中部圏全体で一体となって防災力を高め、災害に備えていきたいということでございます。

本日はそういう中で、南海トラフ地震臨時情報への対応というのが議題になっておりますので、各県・市の取組や課題等を共有し合い、この地域の防災力の強化につなげていければというふうに思っております。よろしく願いをいたします。

また、今回、協議話題として、岐阜県さんから、地域に根ざした文化の創造と継承を挙げていただきました。

現在、岐阜県さんでは、「清流の国ぎふ」文化祭2024が盛大に開催されております。開会式には、天皇皇后両陛下の御臨席を賜りスタートをされたということでございます。どうかまたこの会期中、あと1か月でございますか、また多くの皆さんでにぎわい、そしてまたまさにこの「清流の国ぎふ」の文化が盛り上がっていくことを大いに期待したいというふうに思っております。

なお、今日はこのセラミックパークMINOにおきまして、国際陶磁器フェスティバル美濃'24を見せていただきました。ありがとうございました。大変いいものを見せていただきまして、心からお礼を申し上げたいというふうに思っております。

私ども愛知県も、来年9月から11月、3年に1回の国際芸術祭「あいち2025」を開催いたしますが、会場は名古屋と瀬戸で、今そのために私ども陶磁美術館の改修を今やっております、芸術監督は初めての外国人の女性監督で、UAE出身のフル・アル・カシミさんという方、この方は世界ビエンナーレ協会の会長さんもやっておられまして、美術の世界では大変グローバルに活躍される有名な方でございます、私どもの芸術監督、あとシドニービエンナーレの芸術監督をやっておられるということで、大変有名な方でございます。また日本の焼き物が大好きということで、またぜひ来年、お越しいただくことをお待ちしております。

そしてもう一つ、障害者の芸術展も拝見をいたしました。

私どもも障害者芸術展、あいちアール・ブリュット（展）というのをやっておりますが、こうした取組がどんどん広がっていくことを大いに期待をしたいというふうに思います。

なお、もう一つ申し上げます。

私どもこの10月に名古屋鶴舞にスタートアップの日本最大の支援拠点STATION Aiをオープン、開業いたします。今、引っ越しの最中ですが、明日10月31日がグランドオープン、オープニング式典もやります。7階建て延床2万3,600平米の巨大な建物で、ソフトバンクが運営します。また、ヘラルボニーという盛岡発で今東京で活躍しているスタートアップ企業がありますが、ここは建物とかビルの内装に障害者アートを紹介というか、あっせんをする会社でありまして、そこと組んで、STATION Aiの中に障害者の方が描いた絵とかアートとか、そうしたものが152点あります。私も9月に見に行きましたが、圧巻の感じがありましてね、このヘラルボニーというスタートアップは、パリのSTATION Fに私9月に行きましたら、そこに入っているんです。1,000社のスタートアップのうち日本のスタートアップなんか5社くらいしか入っていないのにその1つに選ばれて、ヨーロッパでこれからどんどん展開していく。STATION Fに入居するというのは、それだけでステータスなんで、すごいことだなと思ひましてね、そういう意味でも、またぜひSTATION Aiにお時間があれば御視察をいただければ、お申しつけただけでしたら御案内させていただきますので、よろしく願いをいたします。引き続き、中部圏の文化をもっとしっかりと盛り上げていきたいと思ひます。

そしてさらに、本日の会議では、大阪・関西万博の機運醸成ということについても御紹介をいただいて、意見交換をすることになっております。来年4月の開幕まで半年を切りました。また、私ども中部圏としてもしっかりと盛り上げていければと思ひます。

私ども愛知県では、2005年愛知万博をやりまして、来年がちょうど20周年ということで、20周年の記念事業「愛・地球博20祭」というのを開催いたしまして、大阪・関西万博のサテライト的な位置づけとして連携をし、盛り上げていきたいというふうに思っております。

なお、GISPRIさんがそういった当時の関係者の同窓会等を企画しているようでございます。古田知事さんにも御案内が行くはずでございますので、その折はまた。20年たつとだんだん関係者が減ってきておりますので、ぜひにぎにぎしくやってくれとってGISPRIに

は言っておりますので、よろしくお願いいたします。

ということで、今日は限られた時間ではありますが、皆様としっかりと意見交換を行いまして、中部圏域がさらに発展をしていくことを大いに祈念いたしまして、御挨拶いたします。ありがとうございました。

【青山 愛知県政策企画局長】

ありがとうございました。

それでは、早速ですけれども、会議を進めてまいりたいと存じます。

座長につきましては、慣例によりまして開催県の知事にお務めいただくことになってございますので、岐阜県知事をお願いしたいと存じます。

座長札を座長の元に置かせていただく間に、報道関係者の皆様に申し上げます。

これ以降の撮影につきましては、報道席からお願いいたします。

それでは、古田知事、どうぞよろしくお願いいたします。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、慣例に従いまして座長を務めさせていただきます。

本日の会議につきましては、記者会見等の都合もございまして、15時52分終了を予定しております。御協力よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

最初の議事は、「大阪・関西万博の機運醸成について」ということでございます。時間は30分程度を予定しております。

この議題に合わせまして、本日は日本国際博覧会協会の高科副事務総長、内閣官房の井上国際博覧会推進本部事務局次長、大阪府・市事務局の山口大阪府副知事にお越しいただいております。

まずは、それぞれの団体からそれぞれ5分間の情報提供をよろしくお願いいたします。

【高科 日本国際博覧会協会副事務総長】

皆様こんにちは。博覧会協会の高科でございます。本日はお時間いただきましてありがとうございます。

また、知事の皆様をはじめ皆様におかれましては、日頃より万博に対しまして多大なる御支援、御協力を賜りましたこと、改めましてお礼申し上げます。

私からは、準備の最新の状況について簡単に御紹介させていただければと思います。

初めにお手元の資料3ページを見ていただきますでしょうか。

これはちょうど2週間ぐらい前の万博会場の写真になります。

リングはもう8月につながりまして、現在、エレベーターですとかエスカレーターの設定工事、あるいはリングの上も芝生の広場などできますので、そうした植栽の工事などを行っているところでございます。

リングの外側には民間企業のパビリオン、あるいは大阪府・市さん、あるいは日本館、関西広域連合さん、そういった日本の関連のパビリオンが並ぶわけですがけれども、もう既に幾つか竣工しているパビリオンもございまして、この後順次竣工していく予定ということで、基本的には順調に進んでいると思います。

リングの中には海外のパビリオンもございます。これ、若干遅れが指摘されて心配されていましたがけれども、現在、独自にパビリオンを造られるのが47あるわけですがけれども、そのうちもう46までは着工していて、着工すると組み上がりも非常に早いので、見る間に立ち上がってくる感じになってはいますがけれども、残りの1か国についても話を伺いながら、十分開幕には間に合うということで準備を進めていただいているところでございます。

ちなみに、地下鉄も1駅延伸して、この夢洲の会場の横に新しい駅ができますけれども、これも1月19日に開業する予定ということで、恐らくもう少しすると試運転など始まることになるのかなと思ってございます。

現場の状況はこういうことございまして、5ページでありますけれども、各国150の目標に対して、今161か国が参加表明をしております。各国続々とパビリオンの構想なども発表してございまして、7ページ、例えばアメリカなどは巨大な2枚のLEDパネルが皆様をお迎えするとか、サウジアラビアは中東のスーク、市場ですかね、これをここで再現するというようなこともお考えいただいているとか、次のページにあるフランスなどは、愛をテーマにしたフランスらしいコンテンツで皆様をお迎えするというので、それぞれ本当に魅力的なコンテンツも今用意して準備を進めていただいているところでございます。

9ページ、10ページは、テーマ事業プロデューサーのパビリオンですとか、あるいは10ページは日本の民間企業様のパビリオン、こういったところも今続々とコンテンツも発表させていただいているが本当に最後の肝になるところは、サプライズで取っておきたいという気持ちが非常に強うございまして、なかなか表に出づら部分もあるんですけれども、それでも何かわくわくするような中身を順次発表してくださいということで、今、各社と協力しながらいろんなコンテンツの発信をしているところでございます。

12ページがパビリオンでなくてイベント、これも会期中、大小様々なイベントが開催されます。このカレンダーの左側に各国の国旗がごございますけれども、これは空いているところも多分ほぼ全て埋まっているんですが、毎日どこかの国のナショナルデーが開催されます。ナショナルデー、これまでの万博を見ますと、国賓級の方々が来日されてということで、恐らく万博開催期間中は、万博会場だけじゃなくて、当然その次の日とか前日とか日本国内あちこち回られるということになると思いますので、そういったものも非常にビジネスチャンスにもなる機会なのかなと思ってございます。

催事を一部紹介させていただきますけれども、13ページは、これは主催者のイベントとして、小橋さんという東京パラリンピックの閉会式をプロデュースされたプロデューサーが今回イベントのプロデューサーですけれども、例えば左側の「One World, One Planet」というのは、会期中、毎日夕暮れ時に会場内のいろんな音響装置、映像装置、それから来場者の方々のデバイス、それが全て共鳴をしてそこで何かを生み出すというイベントを毎日実施する予定です。

それから次のページは、サントリーさんとダイキンさんの御協力をいただいているイベントですけれども、サントリーさんの水に対するこだわりとダイキンさんの空気に対するこだわり、これをぶつけ合いながら水と空気と光と炎と映像と音楽と、こういったものを万博会場、水辺のエリアがごございますけれども、そこで水上ショーというのを毎日開催するというのを予定しています。

それから次のページは、各国ナショナルデーに合わせて、様々なイベントも併せて企画しております、例えばオーストリアがウィーン少年合唱団のコンサートを開催するとかです。ちょっと時間がないので先行きますけれども、次、例えばそれ以外のイベントも、Adoさんの開幕ライブとか音楽フェスティバルとか大相撲の万博場所、あるいはサウナ、あるいは和太鼓とか、こういった様々なイベントを企画して、これからも続々と発表しようとしています。

それから、21ページにチケットがごございますけれども、これは開幕1年前から売り出しまして、目標前売り1,400万枚に対して、今、七百二、三十万枚ということになっています。これからは、どうやって個人の方々に買っていただくかというのが非常に大事になると思っております、そういった意味でも先ほど申し上げたようなコンテンツの発信というのもこれからますます強化していきたいと思っておりますのでございます。

23ページは、予約半年前、この間、迎えましたけれども、東京でのイベント、あるいは大阪では道頓堀のグリコサインのところ、あれを30分ごとに万博のサイネージに変わるというのを今やっただけでございまして、そのキックオフのイベントをやったり、次のページでは名古屋でもナナちゃん人形、あそこを万博のユニホーム着ていただいと、先ほど見に行ったら、もうちょっと別のものに替わっていただけましたけれども、そういったこともやって日本全体で盛り上げていただいているということです。

次のページにあるように、山手線も東京で、これも外だけじゃなくて、車両の中も合わ

せたフルラッピングというので、今走っていただいているということです。

半年前に合わせてキービジュアルをつくりまして、これリングから火星の石とかアンドロイドとか、iPSの心臓の細胞とか水上ショー、いろんなものが飛び出しているというキービジュアルになってございまして、次のページにあるように、これを分解したらこういうような形のデジタルサイネージになります、これをあちこちで今流すようにお願いをしているところでございますし、あと次のページにありますCMをコンテンツに振った形でのCMというのを今流し始めているということです。

こうしたいろいろなツール、これ協会提供できますので、ぜひこういったものを御活用いただいて、ますますの機運醸成に御協力いただけたら大変ありがたいと思っております。

その次のページ、次のページ、お願いを書いておりますけれども、これまでも様々な形で御協力をいただいておりますけれども、こういった新しいツールを用意しましたので、ぜひ御活用いただきながら、また御協力いただければと思います。

参考資料には、いろんな万博の参加のプログラムの状況、参加状況などをつけてございますので、もしお時間がありましたら、後で御覧いただければと思います。

私からは以上になります。

【井上 内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長】

続きまして、内閣官房の次長を務めております井上と申します。本日はよろしく願いいたします。

私のほうからは、地方創生から見た万博の取組について御説明させていただきます。

大阪・関西万博という名前ではありますが、やはり日本の博覧会なものですから、政府としては日本全国の活性化に向けて様々な取組も行っておりますので、その進捗を御説明させていただきます。

釈迦に説法ではございますが、万博の特徴は、2,800万人という大量の方々が動くという話と、あとやはり注目度も高くなりますし、外国がこの機会では何かやりたいって機運がすごく盛り上がる機会でございます。3つ目とすると、子どもたちの教育の場の提供にもなります。そういう意味で、各地域の観光促進、外商拡大、関係人口の増加、交流を深めていくとか、あとは未来を支える人づくりということで、地方人材育成という観点から様々な取組を行っているというところでございます。

簡単に御紹介させていただくと、3ページでございますが、会場の中で自治体がいろいろプロモーションにご参加いただいております。今日御参加の各県、全て出し物をしていただきまして、本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

その次の4ページで、岐阜県、福井県、愛知県など会場内でも催事を実施していただきますし、先ほど大村知事からも話がありましたけれども、県内のほうでも長期間、半年間にかけていろいろ行っていただいて、本当に感謝申し上げます。

次の5ページにもそれぞれ静岡、滋賀の事例を挙げさせていただいておりますが、こういう形で会場の中で様々行っていただくことに感謝申し上げます。

その次の6ページでございますが、人口が1万人から10万人ちょっとぐらいの中堅都市は、やはり一件一件ではプロモーションが結構大変でございますので、実は万博を契機に俺たちまとまろうじゃないかって、670ぐらいの市町村が実は万博用の団体をつくってございます。それが「LOCAL JAPAN展」というのを出すのですが、これの特徴を知事の方々にポイントだけ申し上げますと、県を超えちょっと遠い地域で、お互い同じ強みを持っているところが共同プロモーションするという取組が実際に万博で自主的に発生しているということでございます。

例えばtea journeyっていろんな項目で出し物があるのですが、お茶を通じて、例えば三重の鈴鹿と埼玉の所沢、狭山、入間とか、あと奈良の生駒、これらがみんなで共同宣伝しようじゃないかという取組が進んでいるというところでございます。

その次の7ページでございます。要は万博に来た方を地方に誘客を促進する取組で、これは個別商品を宣伝できる仕組みになってございます。JNTOとか観光庁とか、そういう公的主体は個別商品を宣伝できないのですが、万博の場合は協会という民間団体でございますので、個別商品の宣伝がどんどんできちゃうというところでございます。個別商品をサイトに上げて、FITで来られる個別客と、インバウンドは団体客で来られるところがございまして、そこについては我々50社以上と提携カンパニーを結んでいますので、彼らがこの中身を見て、各地域への商品開発をするというような仕掛けになってございます。

例えばどういうものかという、次の8ページにございます。もう値段まで書いてある商品でございますが、長野の果樹園とか、静岡県のカツオなど、こういうプログラムが今のところ三百六十何件掲載されているという状況でございます。

その次の9ページでございますが、これはオリ・パラのときはホストタウンという形でやってございましたが、万博でも国際交流プログラムという形で国際交流をどんどん地域で進めていこうという取組をしてございます。従来の姉妹都市は、先進国、中国、ブラジルとかそういうところで大体75か国ぐらいでございますが、万博は160か国いますので、グローバルサウスの方々とより関係を強化するまたとない機会という観点からです。我々も支援させていただいて、おかげさまで133件まで増えまして、今まさしく実施していただいているところでございます。

次の10ページ以降事例がございまして、時間の関係上、細かく御説明申し上げますが、外国を活用して地域ブランドの強化とか地場産業の振興、共生社会に向けた地元住民の意識喚起とか、その次の11ページにいきますと、富山県南砺市は観光商品の磨き上げに近い取組でございます。そういう取組が国際交流という名の下に、様々な産業、人づくり、あと地域づくりという取組を戦略的に行っているという状況でございます。

あと、12ページ目でございますが、これは万博のプロデューサーとか、民間企業の方に行っていただきまして、それぞれ3校から5校ぐらい、小・中・高ですね、出前授業に行

っていただいて、未来に語っていただくとか、そういうことを様々やってもらっている状況でございます。この2学期、3学期で行われる予定でございます。

13ページ目でございますが、これ実は万博はビジネスマッチングの機会になってございます。これは投影資料だけになりますが、皆さんに情報提供でございます。これは各大使館からの情報でございますが、各国、特に欧米はビジネスミッションがかなり来ます。各国のパビリオンに実はそれぞれの国の企業が出資しているものですから、CEOが来年集まります。そうすると、それぞれこういう期日でビジネスミッションを来年送り込むからという情報が来ております。これがもう数10か国単位で来ますので、かなりのCEOの方が来年、来られます。これを日本全国にどういう形で行っていただくかというのは、各ジェトロと今いろいろな形で調整しているところでございます。

あとは、中国もナショナルデーが7月11日にあるのですが、在中国日本大使館の情報では、各省単位でもかなりミッションを出されます。なので、愛知県は江蘇省とかとタイアップされていると思いますし、あと岐阜県は江西省とか、福井・静岡さんは浙江省とか、何かいろいろやると思いますので、つながりを深めるチャンスでございますし、我々からぜひいろいろな形で情報提供させていただきます。パーティーとかミッションだとか、そういう動きが来年ものすごく動くことになりますので、各地でもジェトロとか日観振とかいろいろあると思いますので、ぜひ情報の入る形の体制づくりを意識していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

そして最後に14ページ、全国での機運醸成イベントでございます。近々各県でも様々な自ら行われている取組を中心にいろいろ発表するとともに、万博の宣伝もさせていただくイベントをさせていただきます。今月は愛知県様と、あと岐阜県様でイベントをさせていただきます。本当に御協力ありがとうございます。

引き続きすみません。各県の皆様と一緒に盛り上げていきたいと思っておりますので、本当によろしくお願いいたします。以上でございます。

【山口 大阪府副知事】

大阪府副知事の山口でございます。

中部圏知事会議の皆様には、本当に平素からお世話になっておりまして、感謝申し上げます。また、本日はこのような機会を賜りましてありがとうございます。

全国知事会の中に万博推進本部というのがあります。その事務局を預かっているという関係もありまして、私のほうから資料に基づいて説明させていただきたいと思っております。ただ、ほとんど資料は重複をいたしますので、省略して説明させていただきたいと思っております。

まず中身ですけれども、1つは7ページを見ていただきたいと思います。

手前みそなんですけれども、地元大阪府・市、そして関西広域連合がどういうパビリオンを出すか1点目で御説明をさせていただきたいと思っております。

大阪府・市は大阪ヘルスケアパビリオンということで、テーマは「REBORN」、「人は生まれ変わる、新たな一步を踏み出す」というコンセプトでパビリオンを出します。中身のほうですけれども、2050年の都市生活、こういうものをイメージして、未来のヘルスケアでありますとか食文化、エンターテインメント体験をしてもらうことを考えています。

また、特に下のほうで「XD HALL」というのがありますけれども、このホールを使って、世界初のARグラスによって360度没入型の体験ができます。こういうことで新しい未来というのを感じてもらいたいと考えています。

次のページ、関西広域連合で出すパビリオンです。

これも関西広域連合の各府県が様々な知恵を出していただいて、「いのち輝く関西悠久の歴史と現在」というテーマで各府県の特徴を生かした展示を行うということで準備を進めているところです。

大阪ヘルスケアパビリオンについては、もう外観ができて、今、内装工事に入っています。関西パビリオンのほうもほぼ出来上がる状態になっています。

次のページ、10ページから16ページまでは、先ほど御説明がありました展示・イベントであったり催事ですので、重複するので飛ばしていただいて、17ページ、ふるさと納税のことを少し御説明させていただきたいと思います。

万博のチケットですけれども、販売促進にいま力を入れていますし、それだけではなくて、万博をいろんな方に体験していただきたいという思いで、大阪市ではふるさと納税の寄附金の返礼品としてチケットをお渡しするという事業を10月7日からスタートさせていただきました。

また、大阪府ですけれども、能登半島地震で被害に遭われた地元市町村とお話をさせていただいて、このふるさと納税を活用して能登の子どもたちを万博に招待をする。大阪府がお金をとるということではなくて、その財源を全部充てて、能登の子どもたちを招待したいということで取組を進めさせていただいております。そういうことですので、ふるさと納税について御理解をいただければありがたいというふうに思っています。

次に、アクセスが一体どうなっているんだということを少し御説明させていただきます。

ここに書いていますように、中距離バス、空港からのバス、そしてフェリーで来ていただいた方を運ぶバス、大きくこういう3点のバスを想定しています。例えば中距離バスであれば、中部圏であれば名古屋から、そして清水から来ていただける、あるいはまた福井からも来ていただける直行バスを予定して、スムーズな移動というのを確保したいというふうに思います。

次のページ、大阪市内で会場までどう行くのかですけれども、万博会場へのアクセスとしては、一つは駅でいきますと大阪メトロ、地下鉄ですね、1月19日に夢洲駅がオープンしますので、これが直通します。あわせて、JRがその一歩手前の桜島という駅に止まりますので、ここからシャトルバスで夢洲会場まで輸送することを考えております。

そのほかに、主要ターミナル駅、新大阪、大阪駅、中之島、あるいは天王寺、弁天町な

ど10か所ぐらいから会場への直通バスを確保しまして、円滑な輸送につなげていきたいと思いをします。

次のページ、ここからお願いですが、やっぱり万博というのは大阪だけではなくて、できるだけ日本を感じてもらいたいということで、この資料は近畿圏だけになっておりますけれども、できるだけ万博を通じて広域周遊ということをやっていただくということが大事だと思っています。ぜひ各県のほうも御協力をいただいて、いろんな人が訪れるような仕掛けというのを御検討いただけると我々としても非常にありがたいというふうに考えています。

最後に、機運醸成のお願いです。

この資料になっていますように、中部圏でいいますと、万博の認知度では、8割ぐらいの方が知っていただいているんですけども、行ってみたいという方は3割ぐらいにとどまっているということで、なかなかチケットも今現在ではそんなに一般売りというのが売れていないという状況だと思います。我々としては、今月この秋を重点期間と位置づけて、何とか万博のPRをしっかりとやっていきたい、来場につなげたいと考えております。

ついてはお願いですが、まずここにどういう取組をお願いしたいかということで、シティドレッシングであるとか、車両のラッピングとか、SNSで発信とかいろいろ書いていますが、とりわけ秋ですので、イベントがいろいろ行われると思います。これは県のイベントだけではなくて、県内の市町村も行っていると思いますので、ぜひ万博のPRをお願いしたいと思います。我々のほうに御連絡いただければ、ミャクミャクを10体ぐらい持っていますので、派遣をさせてもらいたいと思いますし、チラシとか撒かせていただきたいと思っておりますので、ぜひ県内の市町村の方にも「こんなことをやったらどうか」というようなお願いをしていただければ非常にありがたいと思います。

ということで、我々、精いっぱいですね万博成功に向けて、皆さんのお力を借りながらしっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、何とぞお力添えよろしく申し上げます。今日はありがとうございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

いろいろと積極的なお話をいただきましたが、ちょっと既にこの議題の時間が尽きているという状況でございますので、各県からできれば1分めどで端的な御意見、御要望を言っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、まず福井県の杉本知事、お願いします。

【杉本 福井県知事】

ありがとうございます。

福井県は今回の大阪・関西万博は、関西パビリオンにブースを常設をさせていただきます

す。テーマは恐竜でございまして、実物大の模型であるとか、それから全面を覆うようなVR映像装置をつけさせていただいて、恐竜とともに県内各市町の観光PRなんかもさせていただきます。また、恐竜王国福井県DAYというのもやらせていただこうと思っております。

機運醸成は、国際交流プログラムでブラジルとやり取りをさせていただきますし、またKITTE大阪に「HOKURIKU+」をオープンしましたので、ここをPRしながら北陸新幹線沿線にお客さんを運んで来られるような、そういった仕組みもやっていきたいと思っております。以上でございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、鈴木静岡県知事、お願いします。

【鈴木 静岡県知事】

静岡県では6月6日から8日までの3日間、万博会場内のギャラリーWESTに静岡県の豊かな自然や食材を持ち込んで、「GEO KITCHEN SHIZUOKA」をコンセプトにしたブースを出展いたします。

入り口に設置する富士山の巨大モニュメントで来場者をお迎えし、お茶やワサビ、マグロなどの特産品を使用した創作メニューを提供いたします。また、お茶とワサビをはじめとした緑の風土を巡る空中散歩のVR体験など、静岡県の魅力を存分に体感することができる企画となっております。静岡県からは以上でございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、大村愛知県知事、お願いします。

【大村 愛知県知事】

それでは私から申し上げます。

愛知県の資料は1枚ですが、1ページ、表面を御覧ください。

愛知県は愛知万博の理念継承・発展を目的として、名古屋市さんと一緒に大阪・関西万博の自治体参加催事に出展をいたします。

ステージイベント、展示、それから会場内での様々なロボットを実装するロボットエクスペリエンスも、そこにも県内のロボットメーカー、大学とともに参加をいたします。

8月22、23、24日と3日間出展をいたしまして、愛知万博の理念、成果を伝えて、併せて2026年に開催する第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の発信をいたします。

そして、2ページを御覧ください。

来年は2005年愛知万博の開催から20周年の節目でありますので、ちょうど愛知万博が3月25日から9月25日までの185日間やりましたので、その期間を愛・地球博記念公園とジブリパークを中心に、愛知万博20周年記念事業「愛・地球博20祭」ということで、毎月毎月こういう形のイベントを行いたいと思っております。また多くの皆さんにお越しをいただきたいと思っております。

そして、（愛・地球博20祭では）この愛・地球博記念公園にあるジブリパークと連携をし、そして大阪・関西万博のサテライト会場のような位置づけとしてしっかりコラボして、大阪・関西万博の成功に協力をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、佐藤富山県副知事、お願いします。

【佐藤 富山県副知事】

今日は新田知事の代理で参加をさせていただいております。

今、本県におきましては新田知事の成長戦略のビジョンとして、ウェルビーイング先進地域を目指すということを掲げております。このため、万博においては、テーマウィークの健康とウェルビーイングの期間、具体的には6月の27日から29日にEXPOメッセ会場の2区画を利用して展示をしたいと思っておりますが、本県の豊かな自然、食文化、伝統工芸などを国内外に発信するような取組をしたいと思っております。

特に今、本県の認知度向上ということで、「寿司といえば富山」というのをブランディング戦略を掲げておりますので、この寿司を入り口としたような展示を今検討しているところでございます。

また、県内の機運醸成としましては、県の事業として、この万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿うようなセミナーですとか活動をする団体を支援する事業も設けておりますし、中部経済産業局の電力・ガス事業北陸支局さんとも連携をしながら様々な取組をしているところでございますけれども、国においては、こうした実際の機運醸成の取組、地域活性化に向けた取組に対して、ぜひ財源的な御支援も引き続きよろしくお願いしたいと思っております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、野呂三重県副知事、お願いします。

【野呂 三重県副知事】

よろしく申し上げます。

三重県も関西広域連合が建設するパビリオン内に三重県ブースを設置しています。

画面に出ていますけれども、ブースの中では出会う、知る、旅立つということで、3つに分けて三重県が世界に誇る魅力について発信をしていきたいと思っております。三重県の豊かな自然や食など、美し国の魅力とともに体験をしていただくエンターテインメント型の空間を演出して、三重県への誘客をつなげていきたいと思っております。

期間限定の展示につきましては、ミキモト真珠島の自由の鐘であるとか伊勢神宮の内宮正殿の鯉木なども展示することが決定しております、そのほか熊野古道であるとか産業についても今後決定して発表していくこととしております。

その他、万博会場内で祭りをメインテーマとした催物を開催させていただくことになっております。

機運醸成の取組については、様々なイベントに出展しPRを行っているところですし、子どもたちについても招待をする予定になっております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

江島滋賀県副知事、申し上げます。

【江島 滋賀県副知事】

滋賀県から万博に向けた取組を紹介いたします。

関西パビリオンの中にある滋賀県ブースでは、万博会場のある大阪湾を遡れば、淀川、宇治川、瀬田川を通じまして琵琶湖に至るというイメージをつくりたいと思っております。

キネティック・ライト・ビジョンという450個の光る球体と県内各地の四季の映像を組み合わせて、世界初の空間演出で滋賀の魅力を表現したいと思っております。

次のページをお願いします。

本県では施策の中心に子どもを置いておまして、この子どもを万博に招待したいと思っております。私はEXP070、大阪万博のときに10歳でしたけれども、行って感動しましたので、ぜひ子どもたちを招待したいと思っております。

また、滋賀ミライEXPOということで、今週末11月2日には万博プレイベントとして滋賀ミライEXPOを開催いたします。県内ベンチャーが開発する人型ロボットや空飛ぶクルマを展示して機運醸成したいと思っております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、中村長野県企画振興部長、申し上げます。

【中村 長野県企画振興部長】

長野県では、大阪・関西万博と北陸新幹線の敦賀延伸を契機に、「信州・関西圏経済交流拡大戦略」を策定しております。万博については、先ほど広域周遊の話が山口副知事からもありましたが、松本空港と神戸空港の定期便を活かして観光客の誘致にも取り組んでおります。

万博における自治体参加催事への出展につきましては、豊かな自然や多様な文化など、信州の魅力を目一杯感じていただけるような催事にしたいと考えております。

また、大型商業施設や一流ホテル、レストラン等での「信州フェア」の開催や関西経済界との連携促進など、万博の内外で多角的に長野県の魅力をPRしてまいりたいと考えております。

万博の成功に向けて、長野県でも必要な取組に努めてまいりますので、よろしくお願ひします。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、武田名古屋市総務局担当局長、お願いします。

【武田 名古屋市総務局担当局長】

先ほど大村愛知県知事さんからも御発言があったように、愛知県さんと共に共同で大阪・関西万博の自治体参加催事に出展いたします。愛知県と共に大阪万博を盛り上げてまいりたいと考えております。

また、先ほどやはり愛知県さんから愛知万博20周年事業ということでありましたけれども、こちらと連携するイベントといたしまして、私どもでは令和7年9月中旬に、その当時、愛・地球博の当時にサテライト会場がございました名古屋駅の南側に位置するささしまエリアにおいて、愛・地球博20周年を記念するイベントを開催する予定でございます。改めまして、万博の理念を継承に図ってまいります。

様々な機会を通じて盛り上げてまいりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。以上でございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございました。

では最後に、私から一言。

私もかつて愛知万博を担当したことがあるわけですが、万博というのは国を挙げて、その時代その時代の最先端のものをどう、人類のチャレンジといいますかね、そういうものをどう見せていくかという国家事業でありますので、それにふさわしい国を挙げての協力体制というのは大事だと思っております。

そういう意味で、今日は様々なツール、それから個別観光商品でありますとか、ビジネスミッションとかいろんな話がございましたが、そういったものを積極的に活用して、いわゆる単なる機運醸成ということだけではなくに、我々の地域の発展にもつながるような形で積極的に参加させていただきたいと思っております。

私ども特に重視しておりますのは、万博国際交流プログラムでありまして、実は県としては、開催地の大阪府と並んで8か国と取り組んでおりますし、それから県内市町村も3か国とやっておりますので、11か国とのプロジェクトを同時並行的に動かさせていただいておるといってございます。

また、岐阜デーについては、6月9日、10日で2日間、約20時間いただいておりますので、今年の文化イヤー330事業の中のレガシーを万博で御紹介するというようなことで今考えております。

1点だけお願いしたいと思っておりますのは、これはかねてから申し上げておりますが、自治体参加催事の出演者について、関係者入場証（AD証）というのが発行されるわけですが、これは催事施設内のみ利用可能ということで、一通り催事が終わった後、帰る前に1つか2つ、ちょっとお隣のプロジェクトも見ていこうかなというときには、改めて切符を買ってこいということになっておるわけでありまして、例えばこの関係者入場証で他のプロジェクトの見学を可能とするような措置など、何らかの形で自治体に参加することと併せて、そういう他のプロジェクトについても勉強する機会を与えていただければありがたいと思っておりますので、御検討よろしく申し上げます。

私から以上でございます。

ほかに石川県さん、よろしゅうございますか。

【馳 石川県知事】

特にございません。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

ということで、中部9県挙げて積極的にやっっていこうということでございますので、よろしくお願いたします。

それでは、ここでフォトセッションということにさせていただきます。

御出席の皆様、お立ちいただきまして、前にお越しいただきたいと思えます。

[フォトセッション]

【岐阜県職員】

皆様ありがとうございました。

日本博覧会協会、内閣府、大阪府事務局の皆様、そしてミヤクミヤクはここで御退席です。ありがとうございました。

それでは、ここで10分ほど休憩とさせていただきます。再開は14時50分過ぎでお願いいたします。

〔休 憩〕

【古田 岐阜県知事】

それでは、会議に入らせていただきたいと思います。

議事の2に「国への提言」がございますが、春秋共通の国への提言につきましては、前回協議を行いまして取りまとめた提言に時点修正を加えたものでございます。事務的に調整が済んでおるといふふうに承知しておりますので、こちらの提言で国に対して提言活動を行っていくということにしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。ありがとうございます。

それでは、議事3の「南海トラフ地震臨時情報への対応について」に入らせていただきます。

それぞれの県の対応状況等について情報共有させていただければということで、このテーマを選んだ次第でございます。

まず馳石川県知事、よろしく申し上げます。

【馳 石川県知事】

まず元日の地震、そして先般9月21日の奥能登豪雨というふうに私どもは呼んでおります、奥能登豪雨に際しまして、中部圏知事会議の皆さんのリーダーシップの下、大変な御支援を賜りました。まずお礼申し上げます。ありがとうございます。

その上で、私ども石川県は、元日の能登半島地震、9月21日の奥能登豪雨、二重災害と思っておりましたが、実際に体験してみてそうではありませんでして、多重災害という現状が明らかになっています。

1+1の災害ではなくて、この2つが近かった。そして、元日の災害のときにひび割れをしておりました。これが大規模な集中豪雨で一気に土砂崩れがしたと、川が崩壊したと。このことを踏まえまして、今般の地震と水害の評価をしながら、そのときに実は皆さん方、全国も含めてどういう支援をいただいたか、まさしく直近に、私たちはロールモデルになるのではないかと考えております。これを整理した上で、南海トラフ地震の非常時、情報が入った瞬間に何をすべきか、当然72時間は人命救助最優先ではありますが、皆さん方からいただいた対口支援や給水とか避難所支援とか、こういったことがなされたこともやっぱりこれを整理して改めて皆さん方に報告かたがた、この南海トラフ対策にも資するよう

な資料を提供したいと思っております。

今、今後の対策も含めて今の災害の評価を、評価委員会を年度内にまとめるということでスタートしたばかりでございまして、これを踏まえてまた提言もさせていただきたいと思っております。以上です。

本当に皆さんありがとうございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございました。

それでは、杉本福井県知事、お願いします。

【杉本 福井県知事】

ありがとうございます。

福井県は、まず南海トラフ地震の関係でいいますと最大震度が5強ということが想定されておりました。地震防災対策推進地域には指定をされていないということでございます。

ただ、今、馳知事さんからお話がありましたけれども、1月1日の地震があつて9月21日に水害があつた際に最初動にどういふことをしたらいいかといふことのいろいろな経験も蓄積をさせていただいております。こういったことを応援計画、それからまた受援計画のほうにも反映させていただいております。

その上で、仮に南海トラフ地震が起きた場合は、福井県は災害時の応援協定に基づきまして、三重県に情報収集の職員を派遣することになっておりますので、こういったことを確認しております。ですので、こういった事前の準備もしっかりとしながら今後の大規模災害に備えていきたいといふふうに考えております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、鈴木静岡県知事、お願いします。

【鈴木 静岡県知事】

静岡県では臨時情報の発表を受けまして、即座に24時間120人規模の警戒態勢を取り、南海トラフ地震の発生に備え、県民の皆様に地震への備えの再確認などの呼びかけを行いました。

臨時情報の発表を受けて、一部の海水浴場が閉鎖されるなど、行楽客などに影響がありました。一方、平時には観光施設として活用している津波避難タワーを設置した海水浴場では、訪れた観光客から安心して過ごすことができるという声がございました。

本県が9月に実施しました臨時情報に関する意識調査の結果によりますと、今回の地震情報の発表によって県民の間で臨時情報に対する認知度が大きく向上するなど、一定の啓

発効果が確認されました。

一方、臨時情報の発表を受け、予防措置として施設の臨時休業や東海道新幹線の一部区間での速度を落とした運行などが実施されましたが、特に社会経済活動への影響が大きい鉄道や金融機関、学校などの対応につきましては、個々の事業者の判断に任せず統一する必要があるという課題も浮き彫りとなったと思います。以上でございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、大村愛知県知事、お願いします。

【大村 愛知県知事】

では、私どもの資料を御覧ください。

まず、資料の1ページですが、8月8日の南海トラフ地震臨時情報を受けて直ちに災害対策本部を立ち上げまして、私ども職員220人体制で24時間体制で地震への警戒に1週間あたらせていただきました。当日は速やかにSNSで情報発信を行い、2ページにありますように、私から速やかに県民の皆様へメッセージを发出させていただきました。

翌9日には災害対策本部会議、災害対策本部はすぐ設置しましたが、対策会議を開催し、3ページにあるとおり、地震への備えとして特に再確認をしていただきたい事項ということについても発出をし、注意を図ったと、周知を図ったということでございます。こうした内容を関係機関に通知し、市町村に対しても同じ説明会を開催いたしました。

10日からは、外国人県民に対するやさしい日本語や多言語での情報発信ということも取り組ませていただきました。

8月15日17時をもってこれは終了ということでありまして、この間、一時的に問合せはあったもののトラブルは確認されておりません。県民、事業者の皆様への冷静な対応に感謝をしたいということでございます。

一方で、新幹線など鉄道の徐行運転や運休、イベントの中止、海水浴場の閉鎖などの判断は明確な基準が定められていないので対応が分かれるということもありました。なので、国においては今後の対応を今回は検証していただいて、今後の対応の方向性を早期に示していただきたいというふうに思っております。

私ども愛知県としても、太平洋に面しておりますので、引き続きこうした情報を県民にリアルタイムに適時適切に発信をし、日頃から地震への備えに取り組んでいただけるように引き続き周知啓発をしっかりとやっていきたいと思っております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、佐藤富山県副知事、お願いします。

【佐藤 富山県副知事】

富山県でも、南海トラフ地震臨時情報を受けまして、速やかに危機管理連絡会議を開催しました。また、県のホームページやSNSなどで県民の皆様の日頃からの地震への備えを再確認いただくように呼びかけなどを行ったところです。

今年の能登半島地震も踏まえまして、県では、本年、地震・津波調査検討ワーキンググループを設置いたしております。

南海トラフ地震の被害想定は、平成24年度時点の国の報告書によれば県内の最大震度は震度5強ということで、一部で断水の発生は想定されているものの、人的・建物の被害は僅かということになっておりますが、今年の能登半島地震の県の最大震度も震度5強で、県内も液状化等の被害が発生しており、今回のこのワーキンググループにおいても、やはり南海トラフにおいても強い揺れが長く続くことによって能登半島地震を上回る液状化被害が発生する可能性を指摘する意見がございました。

このため、本年度の9月の補正予算で南海トラフ地震も被害想定調査の対象に新たにすることといたしまして、様々な調査を行っているところでございます。

人的・建物被害はもちろんですが、人流や物流の大動脈が寸断される影響などについても調査を行いまして、その結果を踏まえ、きめ細かい地震対策につなげていきたいと考えております。

なお、南海トラフ地震におきましては、この中部9県1市の災害時等の応援に関する協定に基づき、当県は静岡県への支援に当たることとしておりますが、県内の市町村と連携を密にしていくとともに、迅速かつ適切な支援が行える体制づくりを着実に進めまして、支援を万全に行えるように期してまいりたいと考えております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございました。

野呂三重県副知事、お願いします。

【野呂 三重県副知事】

三重県でございます。

表の左上にありますけれども、三重県のほうも地震発生以来、県に対策本部を設置し、100人を超えるような体制の中で8月15日の対策本部廃止まで取り組んでおります。その間は、SNSの利用であるとか、知事から県民への呼びかけを実施したところでございます。

一旦、次のページへ行っていただけますでしょうか。

これが三重県の図になりますけれども、特に影響があったところは、先ほど静岡県からもありましたけど、鉄道事業者のことで、特に赤い線がある鳥羽・志摩の地域でいわゆる三重県は近鉄が走っていますけれども、特急列車が運休されるという状況がありました。もう少し下を映していただけると、いわゆる海水浴場の閉鎖という状況になりました。

元へ戻っていただければと思います。こういうことから、宿泊施設、観光施設のほうで1,500件を超えるようなキャンセルが発生をして大きな影響があったということになりました。

左の3番でございますけれども、それに関しまして、県内市町であるとか事業者の方から聞き取りをしております。事業者の声も様々ありましたが、対応に非常に追われたというような状況を聞いております。

4番でございますが、今後の課題と対応ですけれども、適切な情報の周知啓発活動が必要というふうに考えております。

特に、さっきも出ましたが、交通事業者の対応は様々でありましたので適切な情報を周知すること、また観光事業者が具体的な防災対策を進められるような支援をしていく、そういうようなことをこれからも取り組んでいきたいというふうに考えております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、江島滋賀県副知事、お願いします。

【江島 滋賀県副知事】

滋賀県では、南海トラフ地震臨時情報発表と同時に、副知事の私を本部長とする災害警戒本部を設置しました。県民への呼びかけと全庁での対応を指示したところです。

課題ですけれども、今回初めて臨時情報が発表され、県民の地震に対する関心が高まった一方で、県民向けアンケートからは、臨時情報を受けてどのように行動すべきかが十分伝わっていなかったということが反省点であります。

今後の対応ですけれども、アンケートの結果を分析しまして、県民が取った行動につきまして検証した上で、平時からの備えや臨時情報が発表された際の行動などについて効果的な周知啓発を行ってまいりたいと考えております。

また、南海トラフ地震発生時には、関西広域連合の枠組みによりまして、滋賀県は和歌山県にリエゾンを派遣することになっております。ただ、滋賀県も被害エリアに入っておりまして、被害が大きかったときにそのような余裕があるのかなども見極めながら、広域的な防災力向上に寄与してまいりたいと思っております。

加えて、来年1月中旬に陸上自衛隊中部方面隊が琵琶湖を舞台に南海トラフ地震を想定した救難飛行艇の発着水訓練を計画されておりますので、県も参画して備えてまいりたいと思っております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、中村長野県企画振興部長、お願いします。

【中村 長野県企画振興部長】

長野県では、県内南部が南海トラフ地震防災対策推進地域となっております。先だつての南海トラフ地震臨時情報が出た段階で、地域防災計画の定めに従い「警戒・対策本部」を設置しております。初めての事例に県としての発信が重要になると考えまして、冷静な対応や日頃からの備えの再確認を2枚目のスライドのように呼びかけさせていただいたところです。期間中、県内で大きな混乱は見られなかったものです。

その後、内閣府によるアンケートが行われましたが、長野県では独自に防災対策推進地域以外の市町村にも聞き取りを行っておりまして、今後、結果を取りまとめ、可能なものから対策を取っていく予定でございます。

本県では、先だつての能登半島地震の教訓を踏まえまして、地震対策のさらなる充実強化を図るため「長野県地震防災対策強化アクションプラン」を策定しておるところです。

「最低3日間、できる限り1週間分の物資備蓄」を県民に呼びかけるほか、住宅の耐震化、孤立地域の発生に備えた情報・物資両面での対策強化、災害に強い道路網の整備などを推進しております。

これらの対策は、南海トラフ地震への備えともなりますことから、可能なものから速やかに進めていく予定でございます。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、武田名古屋市総務局担当局長、お願いします。

【武田 名古屋市総務局担当局長】

名古屋市では、災害警戒本部を設置いたしまして、各部署で職員を配備し、全市的に対応いたしましたところでございます。

主な対応といたしましては、市の公式ウェブ及びSNSなどを使用した広報、それから市民からの問合せの対応、什器などの転倒防止、あるいは消防施設、発電施設等の点検といった施設の保管理、それから備蓄物資・資機材の確認、非常用発電機などの確認、車両等の燃料確認といった発災時の体制の確保、また地域の防災リーダーへの情報提供、関係機関指定管理者及び協定事業者などへの関係者等の連絡体制の確保、こういったものを実施したところでございます。

市民からは、1週間での問合せとして264件の問合せがございました。主なものといたしましては、ハザードマップの入手方法及び最寄りの避難所を知りたい、こういったもの。

あるいは家具の固定方法、それから家具転倒防止ボランティアについて知りたいといったような内容でございました。

今回の対応を踏まえまして、今後の課題といたしましては、南海トラフ地震臨時情報の概要に関する周知啓発、臨時情報発表時の住民へ呼びかける内容の検討、それから長期対応に対する職員の安全衛生対策、こういったものが挙げられておりまして、今後検討を進めていく予定でございます。以上でございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

最後、私ども岐阜県でございますが、お手元の資料にありますように、まず臨時情報の直後に県としての災害警戒会議を開催いたしまして、庁内、それから市町村への事前対応について指示・依頼をしたと。それから、県民への日頃からの備えの再確認などの呼びかけということで、幸い冷静に行動していただいたということで危惧されたキャンセルの問題とか買占めの問題とか、そういうことはなかったようであります。

それから、8月15日に政府としてこの特別な呼びかけが終了というのが出たところで、改めて終了はしたけれども後発地震への備えということで、さらに広く呼びかけをしたということでございます。

それから、次のページでございますが、私どもは最大震度6弱をベースに想定されておりました、ただこの想定は平成25年2月に出されたものですから、今、国が年内をめどに見直しをしていると承知しておりますので、その動向を見ながら想定についてまた議論をする必要があろうかなと思っております。

それから、馳知事からロールモデル云々というお話がございましたが、私どもは能登半島地震からの学びということで、現場へのいろいろな支援作業からいろいろと学んだことについて整理をして、明日の我が身どころか今日の我が身だということで対応を強化してきているところでございます。特に今回の南海トラフとの関係でいうと即時のオール岐阜体制の構築ということと、それから県民による備えの意識の向上ということについて、まさに能登半島地震で学んだことをこの南海トラフにも応用していけるというか、そういう感を強めたところでございます。

それから、今回は出ませんが、巨大地震警戒という次の段階に行く場合の対応指針も、土砂災害、それから住宅倒壊に備えて避難についていろいろと規定しておりますけれども、これも改めて周知徹底をしたところでございます。

私どもとしては以上でございます。

以上のそれぞれの県・市の対応に関しまして、御質問とか御意見とかはございますでしょうか。

それぞれにスムーズにおやりになったところもありますし、幾つか鉄道利用に関する課題とか、それから今回の一連の対応についての検証作業からさらに周知啓発についての向

上策をやっていくというようなことで、ほぼ全ての県・市が一致しておったように思います。引き続き具体的な情報交換をそれぞれしながら十分な体制を整えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、この問題についてはここで終わらせていただきます。

特に、先ほど申しあげましたように、国のほうも今回の経験を踏まえた様々な見直しの動きがございますので、お互いに情報共有しながらこの動きも注視していきたいと思っております。

それでは、次の協議話題に入らせていただきます。

実は、ちょっと今までにないテーマでございますが、「地域に根ざした文化の創造と継承」というテーマで、今回私どもから提案をさせていただきます。

ちょうど今日お話を申しあげましたように、私どもは今年文化イヤーということで様々な文化の試みがございますものですから、私どもは「清流の国」と自称しておりますけれども、その「清流の国」の「清流文化の創造」ということで今年の文化イヤーについていろんなアクションを行ってきております。

そういったことから、「地域に根ざした文化の創造と継承」をそれぞれの中部地域がどのように行っているかと、それからそれについての様々な日本の東西南北、真ん真ん中というところでの共通の課題、共通認識もあっていいのではないかと、連携もあっていいのではないかと、そんな問題意識でこのテーマを取り上げたところでございます。

ただ、そもそもこの文化とは何かという問題がありまして、これは人によって様々な定義があるわけでありまして、元文化庁長官の青柳さんは、「衣食住の充足に上乘せする形で、日々の暮らしをより心地よく、より豊かにしてくれるもの」と定義しておられますし、実は私自身も国民文化祭の開会式で、「もともとそこにあるものを尊ぶとともに、そこから価値を新たに生み出すもの」というような言い方をしておるわけでありまして、いずれにしても、人が生活している、生きている空間には必ずそこに文化が存在し続けるということで、その空間のありようにより行政としても一定の責任を有するというところで、今日議論していただくのもそれなりの意義があるのではないかと、こんなようなことでございます。

あと、私どもの取組について簡単に御紹介しますと、2ページでございますが、一番下のところにありますように、4つの柱で来ております。地域の魅力発信、それから多様な文化交流、それから文化財の保存、継承、活用、それから気軽に触れられる環境づくりと、こういうことでございます。

3ページは地域の魅力ということで、例えば地歌舞伎でありますとか、4ページの障害者芸術でありますとか、それから様々な切り口でのぎふ芸術祭でありますとかということでございます。

それから、交流という意味では5ページにありますが、ハンガリーとの音楽家の育成を通じた交流でありますとか、あるいは石川県と、実は今回地震の災害支援をする中で、文

文化交流協定を結ばせていただきました。私どもの国民文化祭の一つのテーマとして能登の復興・復旧への祈りということ掲げまして、石川県にも参加をしていただいています、特に御陣乗太鼓を奏でていただいたということで、これを御縁に、その他障害者アートとか地芝居とかいろんところで石川県との交流を進めております。国民文化祭そのものが実は昨年石川県で行われまして、それを私どもが引き継いだという巡り合わせもございまして、相互にやっぺいこうということでスタートしたところでございます。

こういう試みを他の県・市の皆さん方と進めていくのも一案かと思っております。

それから、6ページはユネスコの無形文化遺産、様々ございますが、保存・継承・活用への支援、地芝居への伝承への支援、それから最後に環境づくりとしてはデジタルを活用した取組でありますとか、8ページにあります国民文化祭、様々な切り口で文化にアプローチをしておるということでございます。

一番最後のページに、石川県の御陣乗太鼓、それから地芝居フェスティバルに曳山子供歌舞伎を御参加いただいたというようなことでございます。

9ページの一番下のところにありますように、といったことを通じて地域への愛着と誇りを再確認するという、それから共生・共創社会の実現をするということ、こういったことを理念として文化行政を進めていくのかなというのが今私どもの状況でございます。

ということを御披露申し上げた上で、各県の様々なお考えや取組について御紹介いただければありがたいと思いますのでよろしく申し上げます。

それでは、馳石川県知事、よろしく申し上げます。

【馳 石川県知事】

古田知事、ありがとうございます。

文化の話を始めると、みんなそれぞれお国自慢ができるので、とともしゃべりやすくうれしいです。また、今般の岐阜の国民文化祭、大盛況おめでとうございます。

では、ちょっと石川県のお国自慢をさせていただきたいと思います。資料を御覧ください。

伝統工芸、伝統芸能、生活文化、庭園文化、里山里海、食文化とございますが、この庭園文化で面白いのは、特に金沢市内などは、庭とおうちが一体的になっている「庭屋一如」という概念がございまして、これはある意味では加賀藩の武家文化の一つの象徴だろうなというふうに思っております。

次のページを御覧ください。

まずハード面ですが、やはり兼六園周辺文化の森という構想で、中核市としては非常に金沢城公園、兼六園を中心とした文化ゾーンとなっておりますので、あのエリアを観光も含めてもっと発信していきたいと思っております。そのためにも、今金沢城の復元整備を行っておりますし、国立工芸館の移転によってより一層やっぱり品格を増す一つのツールになったと考えております。

次のページをお願いします。

そこで、施策という形で言えば、まず平成27年にいしかわ文化振興条例を制定いたしました。同時に、いしかわ県民文化振興基金の創設をいたしまして、当時全国最大の120億円の基金、この運用益で多彩な文化活動を後押ししております。

それから、政府が文化観光を推進するというので、京都に文化庁を移して発信しておりますので、これは我々も負けちゃいけないということで、総額100億円のファンドを設立して、文化の担い手と観光事業者が連携したコンテンツの造成、これを複数年度にわたって一貫して伴走型支援をしようというふうにしております。

次のページ、4ページをお願いします。

そこで、昨年、いしかわ百万石文化祭2023、128万人を超える方が参加いただきました。特に、金沢城公園で開いたチームラボは10万人ぐらいかかと多めに見積もっておりましたが、はるかに超える十四、五万人で開催できまして、これは金沢城公園というのは、中にはごみ箱も置いていないし、ごみは持って帰ってください、飲食の店舗も置いておりません。なので、逆に夜の観光にとってはマイナスだったんですが、この光の祭典で13万人ほども来ていただいたということで、新たな、実は文化と観光の発信拠点になるなということのヒントを得ることができました。

5ページを御覧ください。

現在の取組ですが、先ほど古田知事が言っていたように、岐阜県と文化交流連携協定を締結しました。また、昨年、京都府と文化振興に関する連携協定を結んで、今年の9月に金沢おどりに京都の芸妓さんと舞妓さんに参加いただいて、私はこれをやりたくて連携協定を結んだようなものなんですが、大変な盛況を博しましたということで、今後、ハード・ソフト、特に人を応援すると。それから子どもたちを参加させていくということ、音楽文化にも子どもたちを参加させるということを中心に取り組んでいこうと思っております。以上であります。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

杉本福井県知事、お願いします。

【杉本 福井県知事】

ありがとうございます。

福井県のお国自慢でいえば、「千年文化を未来へ」というのがブランド戦略の活動方針として、昨年策定をさせていただいています。

福井の場合は、北陸の中でも特に文化的・歴史的には古くて、例えば越前漆器、それから越前和紙、紫式部でもいろいろと取り上げていただいていますけれども、これはいずれも1,500年の歴史がございます。

また、越前の打刃物はよく切れるんですけれども、これは南北朝からなので700年、越前焼は800年の歴史があるとか、明通寺も1,000年近い歴史があるとか、こういうようなものがございます。そういったものを北陸デスティネーションキャンペーンとしてJRさんにやっていただいております。美観、美食、美技、美湯、美心の5つのテーマで企画しており、これはいずれも文化をテーマにしています。美観は北前船の中村家、ここのところの望楼座敷が特別公開であるとか、美技のところは右側にありますけど、RENEWという、これは産業観光なんですけれども、さっき申し上げた漆器とか和紙とか打刃物とか、いろんなところのお店を開いて作るところを見せる、こういうような催しを今ちょうどやるところでございますし、国宝の明通寺を使った特別公開とか、それから道元禅師の永平寺も1244年創建ですので千年文化の一つということでございます。

それから、ちょっと文化であるようなないようなというか、ないんですけれども、次のページで、これは福井県立恐竜博物館。これはもう皆さんに強烈に印象に持っていてと思いますけど、文化、歴史を完全に超えています、とはいえ新しい文化になりつつあると。福井の駅前に来ていただければもう撮り放題という動く恐竜がたくさんおりますので、おいでいただこうと。

一乗谷朝倉氏遺跡も、これは中世の遺跡の中で日本最大、しかも9割はまだ土の中に眠っているということで、正直申し上げますと、織田信長に攻められて滅ぼされてそれが土の下に眠っているということで、日本のポンペイということで今一生懸命売り出しているところでございますし、永平寺さんの禅の文化、それから御食国若狭と鯖街道、これは日本遺産プレミアムで唯一今回選んでいただきましたので、これの売り込みも今一生懸命やらせていただいております。

それから、3ページのところにありますけれども、福井城址、実は福井県庁が建っているところは福井城の本丸の跡でございまして、全国で多分本丸に県庁が建っているのは福井県庁だけだと思いますけれども、ここのところを、県庁はいずれまだ三、四十年は建物がつもんですから、その間にもいろんな再建をやっていこうということで、坤櫓（ひつじさるやぐら）、こういったものの復元も今やっているところでございますし、それからそれ以外のいろんな令和の大修理をやっている西福寺とか大安禅寺なんかもございます。

また新しい文化ということで、今年、ここの5年で福井はいろんな夏フェスを開いています。このONE PARK FESTIVALは、本当に福井県庁の横、福井駅から徒歩で七、八分のところで大音量で1万人ぐらい集まってやっております、そのほか、芝政でGREEN FLASH Fesとかおぼろっくというのを敦賀の港でやったりとか、こういう新しい文化。越のルビープロジェクトは若い人を育てる、河和田のアートキャンプは、これは水害のところへ若い学生さんに京都とかから来てもらおうという、こういうこともやって新しい文化をつくるということもやらせていただいております。以上でございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

続きまして、鈴木静岡県知事、お願いします。

【鈴木 静岡県知事】

ありがとうございます。

静岡県では、文化芸術との関わりを通じて新たな価値を生み出す取組をかねてから進めております。

このうち、今回は大きな2つの取組を御紹介いたします。

大きな取組の1つ目は、「アーツカウンシルしずおか」でございます。令和3年に設立いたしまして、まだ4年弱と日は浅いのですが、ユニークな取組で全国に知られる存在となっております。

「アーツカウンシルしずおか」では、「すべての県民が表現者である」という考えのもと、県内の様々な地域資源などの価値を文化芸術を通じて一層高める取組を行っております。そのうちの主なものを御紹介いたします。

まずは、「文化芸術による地域振興プログラム」です。

住民主体の創造活動に対して専門家の伴走支援や助成を行うもので、これによって地域のお祭りやイベントの価値を一段高めることを目指しております。例えば市民有志が立ち上げた「熱海怪獣映画祭」や、まちづくり団体が主催する「無人駅の芸術祭」、障害福祉団体による「表現未満、プロジェクト」などは、人口減少の象徴である無人駅、障害の有無など、一般的にマイナスと捉えられがちな事象を「発想の転換」によって強みに変えることで広く注目を集めているという評価を受けております。

2つ目は、「マイクロ・アート・ワーケーション」です。県内各地のまちづくりや移住支援団体と「旅人」であるアーティストをつなげる取組で、地域住民とアーティストの交流を促進しております。

「旅人」であるアーティストを受け入れた団体がアーティストと接することでアートの効果を実感し、新たにアートプロジェクトを立ち上げるなど、プロジェクトの新しい担い手の発掘や関係人口の創出につながっております。全国的にも注目されております。

3つ目は、企業活動へ刺激をもたらす取組として、「アーツカウンシルしずおか」では企業へのアーティスト派遣などを実施しております。

企業の社員がアーティストと直接関わるワークショップなどを開催し、企業活動全般にアート思考を浸透させるもので、取組を行った企業からはクリエイティブ人材と直接関わることで、社員たちの感覚が研ぎ澄まされて新たな視点が引き出されたなどの声をいただいております。

大きな取組の2つ目は、「静岡県舞台芸術センター、SPAC」でございます。

SPACは、平成7年に設立した専用劇場を有する県立の劇団で、間もなく創立30周年を迎

えます。本県が進める「演劇の都づくり」の中核機関として、これまで延べにして3,300回以上の公演を行い、約90万人の方々に演劇を御覧いただいております。

SPACでは、世界と静岡をつなぐ取組として、毎年国内外から舞台芸術作品を招いて「ふじのくに せかい演劇祭」を開催しております。SPACの世界的な評価の高まりを受けて、「ふじのくに せかい演劇祭」に、各国の演劇関係者から出展したいとのオファーも多くいただいております。

演劇の持つ教育面での効果に着目し、教育の価値を高める取組を行っております。

県内の子どもたちが高校を卒業するまでの間に必ず数回は演劇に触れる機会を設けることで、子どもたちのコミュニケーション能力や表現力など、人間力を高める教育効果をもたらしております。

このように、今後もまちづくり、福祉、産業、教育など、様々な分野で文化芸術の力を活用し、人々の感性を研ぎ澄まし、様々な気づきを促すことで新たな価値の創造につなげてまいりたいと考えております。静岡県からは以上でございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、大村愛知県知事、お願いします。

【大村 愛知県知事】

ありがとうございます。

それでは、愛知県から発表させていただきます。

まず資料1ページでありますけれども、私の愛知県はあいち文化芸術振興計画というのをつくりまして、4つの基本目標を掲げまして取り組んでおります。そういう中で、今日は国際芸術祭の開催と生活文化の振興について申し上げたいと思います。

まずは2ページですが、国際芸術祭「あいち2025」でありますけれども、2010年から3年ごとに開催をし、今回で6回目となります。今も準備をどんどん進めておりますが、来年の9月から11月30日までということでございます。

先ほど申し上げましたが、芸術監督は初めて外国人の方、それもUAEのドバイの隣にシャルジャという王国がありますが、7つの王国ですからね、UAEは。そのシャルジャ王国のこの方は王女様でございます、何かこのアル・カシミ家は総資産が30兆円を超えるらしくて、世界で2番目の大金持ちらしいですけれども、御本人はロンドン大学の美術科を出られた、ロンドンを拠点に活躍する、まさに世界を飛び回る芸術家というかキュレーターですね。ディレクターでございます。

頻繁に日本に来ていただいております、名古屋、瀬戸を中心にやっていただきますので、本当に私も何が出てくるが楽しみで仕方ない。芸術祭の会長は、組織委員会は大林組の大林会長にお願いしており、大林さんとも何が出てくるか楽しみではないかと話

しております。またぜひ来年お時間があれば御案内しますので、お越しをいただきたいと思います
思っております。

続きまして、3ページはその前年、今年、今ちょうどですが、この国際芸術祭「あいち」の地域展開事業ということで、瀬戸で現代美術のワークショップ展覧会、若手アーティストの現代美術展なども行っておりますので、また御覧いただければと思います。

それから、4ページが障害者の芸術文化活動の振興というものに取り組んでおりまして、2014年度から「あいちアール・ブリュット展」を開催しておりますが、かれこれ11年目になります。毎年700点ぐらいの応募がありまして、本当に大きな芸術祭に育ってくれたなと思っております。

障害者の方にアート作品を描いてもらって、それを企業さんに買っていただく、また企業に雇用いただくという障害者アート雇用というのも2016年からあって、今20人ぐらい雇用に結びつけてたところでございます。

また、そうした絵を買っていただいてノベルティグッズ、ティッシュボックスとか、またいろんな銀行の封筒とかにも使わせていただいております。人材の育成もやっております。

そして最後に5ページですが、生活文化ということで、愛知、各県さんにもみそ、しょうゆ、お酒といった発酵食があると思いますが、特に私どものところは、愛知県はみそ、しょうゆなどの発酵調味料、日本酒、漬物などの発酵食品が非常に多いということでありまして、かつて1800年ぐらいに半田のミツカン酢が酒かすから酢をつくるという、大量に安く酢を作るという技術を開発いたしまして、粕酢を樽に詰めて尾州樽廻船で江戸にぼんぼん送って酢が安くなったので江戸の早ずし、江戸前ずしができたというような歴史の事実がございますので、これもやっぱりしっかりとPRしていこうと思っております。当時のすしというのは、やまぶき色で、半田のミツカンミュージアムに行くと食べられますので、またぜひお越しをいただいて、食べていただければと思います。

あとは、名古屋めしの元になっている八丁味噌とか、これは岡崎の八丁味噌ですが、そういうものもありますので、愛知「発酵食文化」振興協議会というのを5月に立ち上げてまして、これをしっかりとPRをして国内外に発信をしていこうと今年度からいろいろなPRをどんどんやっております。特にたまり醤油というのはこの愛知、岐阜、三重の伊勢湾のここしかないの、全国では。大体、しょうゆは薄口と濃口と、あと九州にアミノ酸を入れた甘いしょうゆしかない。たまり醤油はこの辺しかないの、そういう意味では。

またいろいろこうした事業で一緒に広域連携でやれたらいいかなと思っておりますので、また御連絡をさせていただければと思います。ということで、私からは以上でございます。よろしく申し上げます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございました。

それでは、佐藤富山県副知事、お願いします。

【佐藤 富山県副知事】

富山自慢も少しさせていただきたいと思います。

この写真は、富山県の美術館でございます。後ろに神通川をたたえておりますが、この3階も全面がガラス張りになっておりますけれども、3階から晴れた日は立山連峰がとてもきれいに見えまして、私も富山に来てまだ半年ですけれども、立山を見るたびに心が洗われるという気がしているところでございます。

簡単に御紹介をいたします。3枚目をお願いします。

まず文化観光ということで、自然文化、歴史文化、伝統文化、こういったものを観光と結びつけていくのを今重点施策としておりまして、まず今申し上げた立山がまさに富山の自慢の一つですけれども、県の立山博物館というものがございます。今、こちらの文化観光振興拠点計画が国に認定されましたので、展示内容のブラッシュアップなどに取り組んでいるところです。富山市内から少々遠いところにあるんですけれども、インバウンド客の誘客などにも力を入れていって、立山の魅力を発信していきたいと思っております。

次のページですが、また立山関連としましては、黒部宇奈月キャニオンルート。立山黒部アルペンルートというのが有名ですけれども、まさに戦前戦後の水力発電所建設のための工事用ルートであったこのキャニオンルートを観光向けに開放するというので、本当であれば今年から一般開放、旅行商品化する予定であったのですが、残念ながら能登半島地震の影響で黒部峡谷鉄道の沿線に崖の崩落等があつて全線開通は来年以降になるということで、まだ明確な時期はちょっと言えない状況ですけれども、来年以降をぜひ楽しみにしていただきたいと思っております。

なお、今、10月、11月限定なんですけれども、黒部峡谷鉄道に猫又駅という全国で唯一「猫」がついた駅がございます。「猫又」の由来は、その昔、猫に追われてきたネズミが、「猫又駅」のそばにある「ねずみ返しの岩壁」に阻まれて登れずに引き返したため、それを追ってきた「猫も又」引き返したということから、この地名がついたとも言われています。ここは通常は一般客が乗降できないんですけれども、ここを今乗降できるようにしておりますので、猫型のオブジェを置いたりして、インスタ映えするようなものを置いて停車できるようにしておりますので、今、晴れた日なんかにはたくさんお客様が来ていただいています。

私も行ったことがないんですが、11月までですけど、ぜひお越しいただければと思います。

次のページをお願いします。

富山には本当に魅力的な様々な多数の特色あるお祭りがあります。有名なところでは、富山市八尾のおわら風の盆、今年も9月に開催しました。また、魚津市のたてもん祭りな

ど、たくさんあるんですけれども、やはりこういったお祭りは地域の方々の熱意と善意に基づいてこれまでずっと継承されてきましたが、残念ながら人口減少やコロナ禍ということもやはり影響しております、今、その祭りを支えていく財源と担い手の確保というのが大きな課題になっております。

県ではこういった地域のお祭りの保存、そして継承に向けた収益化を推進する支援をしております、例えば今年からこういった祭りの有料観覧席の設置などの後押しをしているところです。

なかなか難しい課題ではありますが、未来に継承していけるような取組をこれから進めていきたいと思っております。

次のページをお願いします。

芸術文化の創造・体験機会の創出ということで、先ほど紹介しました立山博物館、そして写真でも御紹介した富山県美術館のほかに、県立水墨美術館、それから高志の国文学館と4館がございます。この4館でこれまで共通で連携したイベントというのをやったことがなかったんですけれども、昨年春から高志の国文学館では、女優の室井滋さんに富山県御出身の御縁で館長になっていただきまして、室井館長の御発案でもっとこの4館が連携していろいろ取り組んでいこうということで、今年から本格的に連携事業を展開しています。

また、高志の国文学館では、室井館長御自身が様々なイベントに御参加いただいて、文学サロンなどで朗読をしていただくようなこともやっています。

そのほか、とやまアーティストマッチング事業というのがございまして、これも県民からの依頼に応じてアーティストの方の出張公演ですとか、ワークショップなどの派遣を支援しているところで、多くの方々の文化芸術に触れる機会の創出に努めているところでございます。

次のページをお願いします。

それから、富山から世界へ発信する芸術文化の取組というものも、これまで長年やってきております。とやま世界こども舞台芸術祭、これは4年に1度の開催ということで、前回は2年前でしたけれども、世界から2,000人を超える方々が参加をして、国際色豊かな舞踊やミュージカルなど、ステージを多彩に繰り広げていただいております。

それから右上、利賀芸術公園では、演出家で有名な、今年9月日経新聞の「私の履歴書」で連載もありました、鈴木さんが主宰する劇団SCOTの舞台公演がもう来年で50年になりますけれども、開催されています。今、利賀地域の人口は400人ぐらいになっておりますけれども、本当に国内外から外国の方も多く訪れるような状態がこの鈴木さんのおかげで続いてきたところです。

また、中学・高校の部活動で郷土芸能の継承保存活動も盛んに行われております。昨年、富山・金沢でG7の教育大臣会合が行われた際には、高校生が伝統のこきりこ節を披露するなど、各国の代表団から高い評価をいただきました。先般のぎふ総文にも本県から25校参

加をさせていただいたところでございます。

最後に世界文化遺産の登録の取組をちょっと御紹介したいと思います。

我々、今2つの世界文化遺産登録を目指しております。

1つがまた立山になりますが、立山砂防です。これは、古来3,000メートル級の立山連峰から富山湾に流れる河川は非常に急なので、昔はもう本当に氾濫に悩まされてきたということで、特に江戸時代に常願寺川という川の上流で発生した大地震で大規模な土砂災害が発生し、多くの命が失われたことから、そうした土砂災害を防ぐために砂防ダムが造られて、約100年にわたってこの富山の住民の暮らしを守り続けているというものです。

それから、近世高岡の文化遺産群というのは、高岡はもともとは城下町ですが、そこから商工業都市へと発展したという歴史がありまして、美しい町並みや国宝の寺などが残っております。

こうした歴史を物語る文化遺産の集積地としての魅力がしっかりあると思っております、立山砂防についてはこれからも着実に調査・研究を行ったり、また近世高岡については資産価値の向上に取り組むことによって世界文化遺産の登録を目指していきたいと思っております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

お国自慢に火がついたようでありまして、時間も大分押しておりますので、御遠慮なく言っていただければいいんですけども、よろしくお願ひしたいと思います。

野呂三重県副知事、お願いします。

【野呂 三重県副知事】

ありがとうございます。

コンパクトに熱意を込めてPRさせていただきたいと思ひます。

次のページをお願いします。

三重県における文化でございますけれども、まさしく三重県といえば日本の精神文化の源流と言われます伊勢神宮。世界遺産の話が出ましたけれども、ちょうど20周年になります熊野古道があります。

全国の人々がこれまでも憧れて訪れる拠点であり、これはまさに三重の文化における特色の一つではないかなというふうに考えております。

また、写真に3つ載っておりますけれども、丸山千枚田、海女さん、伊賀忍者と南北に長い県土を持っておりますので、多様で豊かな自然環境を背景に様々な文化が生まれて継承されております。

また、ここにも書いてありますように、多くの偉人を輩出しております。これが三重県民にとってアイデンティティーを育む礎となっております。

右側が文化振興計画でありますけれども、様々な課題があり、施策の展開として、環境をつくっていく、歴史をつないでいく、文化を生かす、こういう3つの方針で今進めさせていただいております。

次のページをお願いします。

環境をつくるについては、三重県も県立の文化施設がたくさんありますけれども、周年事業を契機に様々やらせていただいておりますし、下にありますけれども、子どもたちの文化活動ということで三重のこどもニューイヤークンサートということで、新日本フィルとも協働しながら、様々触れていただいております。

先ほどもお話が出ましたけれども、やはり継承していくというのは非常に難しいということで、もしかしたら小さい動きかも分かりませんが、子どもたちに体験をしていただけて子どもたちに意見をいただけて頑張っているところ、こういう仕組みが一つあります。みえ祭協力隊ということで、県内の子どもたちを対象に祭りに参加していただいて成果をワークショップでまとめて、その下にありますみえ祭会議ということで発表をいただいております。この体験して発表していただいたことで、その保持団体、保存団体からも「新しい魅力の発見になった」とか「モチベーションが高まったよ」というような意見が寄せられております。

次のページをお願いします。

まさしく文化を生かすということで、これは一例ではございますけれども、令和5年度から斎宮を核とした文化観光ルートを構築しました。

お伊勢さん、伊勢神宮は有名ですけれども、天皇の代わりに神宮に仕えた斎王、斎宮跡というのがありますので、斎宮跡のにぎわいを創出して、情報発信、誘客促進に努めています。

岐阜県、愛知県の両知事には、この夏、東海三県二市の知事市長会議の際に御来訪いただきまして見ていただいたところでございますけれども、グリーンスローモビリティや食文化、そのほかには衣装試着体験とか発掘体験、様々なコンテンツを充実して、にぎわいの創出に取り組んでいます。

今年度からも新たな文化体験のルートを設定して、今後も県内全域に文化観光を横展開していきます。

最後のページをお願いします。

文化を生かすということで、東京日本橋に「三重テラス」というアンテナショップを三重県は持っておりますけれども、ちょうど11周年を迎えました。ショップだけではなく、レストラン、コミュニティスペースもあります。イベントを開催するとともに、コワーキングの機能も来訪者の交流を促進しております。

この中でも季節に合わせた伝統工芸品の販売であるとか、食文化の魅力を伝えるレストラン、首都圏の方に三重の魅力を知っていただくような取組を行っておるところでございます。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございました。

それでは、江島滋賀県副知事、お願いします。

【江島 滋賀県副知事】

ありがとうございます。

今回の中部圏知事会議、岐阜県の焼き物のまち、多治見市で開催いただきました。滋賀県にも六古窯の一つ、信楽焼がございますので、焼き物もやっぱり文化だろうと思います。焼き物つながりでの開催、うれしく思います。

本県でも文化振興は大変重要と考えております。本日、その中から滋賀県らしい取組を3つ御紹介いたします。

1つ目は、「ホールの子」事業ということでありまして、琵琶湖畔にありますびわ湖ホールを活用しまして県内の小学生に優れた舞台芸術、本物の音楽に触れる機会を提供しようということで、平成23年度に始めました。私もびわ湖ホールに勤めたことがありまして、そのときに始めた事業、思い入れの深い事業であります。

京都市交響楽団のオーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる本格的な音楽公演を実施しております。今年度は177校から約1万2,200人の児童・生徒が参加していただきました。

滋賀県では、このほかにも琵琶湖に浮かぶ学習船で宿泊体験するうみのこ事業をはじめ、やまのこ、たんぼのこなど、体験学習をする機会がありますが、ホールの子もその一つであります。子どもに文化に触れる機会を与えるというのは大事だと思っております。

2ページをお願いします。

次は、障害者文化芸術の取組で、先ほどの愛知県からも御紹介がありましたが、本県では障害者文化芸術活動推進計画を策定しまして、障害の有無に関わらず誰もが楽しめるプログラムを展開しております。

時間の関係で右下のアール・ブリュットを紹介させていただきます。

県立美術館は、日本の公立美術館で唯一アール・ブリュットを活動の柱として掲げております。昨年、日本財団から550点の作品を受領いたしまして、質・量ともに世界有数のアール・ブリュットコレクションを有することになりました。これらの作品を公開しまして、誰もが自分らしく文化芸術に親しみ、人と人がつながる滋賀県を目指してまいりたいと考えております。

次のページをお願いします。

3つ目は、これはまさに滋賀県らしい取組だと思えますけれども、滋賀県の真ん中に琵琶湖がありまして、その琵琶湖に眠っている水中遺跡の魅力発掘・発信事業です。

琵琶湖の水中遺跡は縄文時代以来の遺跡が78か所あり、その数は沖縄県に次いで全国第2位ということだそうです。

今年度は、左にありますように、葛籠尾崎（つづらおざき）と読みますけれども、湖底遺跡が発見されてから100周年になります。

また、その右、塩津港遺跡は今年のNHK大河ドラマ「光る君へ」の紫式部ゆかりの遺跡でもあります。今年度から2年かけて基本構想をつくりまして、長期的な視点を持って調査・研究に取り組んでまいりたいと思っております。

次のページをお願いします。

最後に、来年、本県で開催します「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」に触れたいと思います。

今年は佐賀県で開催されましたが、いよいよ来年は滋賀県であります。多くの県民・団体の御協力の下で、環境に配慮した滋賀県らしい取組を目指してまいりたいと考えております。

あわせて、右下にありますように歴史や文化、自然など滋賀の魅力を発信する文化プログラムを実施いたします。様々なイベントや展覧会などの準備を進めております。

ぜひ中部圏の皆様にも滋賀県にお越しいただきたいと思っております。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、中村長野県企画振興部長、お願いします。

【中村 長野県企画振興部長】

長野県では、文化芸術の価値を高め、支える、広げる、つなげる信州の豊かな未来を基本目標に、文化芸術があらゆる分野に根つき、生かされる取組を推進しております。

この目標の実現に向けて、これまで本県が取り組んできた文化振興施策の事例を紹介させていただきます。

3ページをお願いします。信州アーツカウンシルの話でございます。

令和4年度に、文化芸術の中間支援組織である信州アーツカウンシルを設立しました。信州アーツカウンシルは、文化芸術の担い手を県内の多様な主体が支えていくことによって、資料に記載しております3つのミッションの実現を目指して活動しております。

運営主体は、本県の文化財団である長野県文化振興事業団としまして、助成、相談、助言を行う「活動基盤強化プログラム」、他団体と連携した「連携・協働プログラム」、地域と関わっていく「地域創造・交流プログラム」に取り組んでいるところでございます。

また、長野県障害者芸術文化活動支援センターのザワメキサポートセンターと連携した社会包摂の取組も展開しているところでございます。

具体的な取組に入っております。4ページをお願いします。

信州アーツカウンシルの成果として、2つの事例を紹介させていただきます。

左上でございますが、家庭や地域に眠る8ミリフィルムを資源として発掘収集し、松本

市の日常生活の歴史を「まつもと日和」という映画で紹介いたしました。制作には住民が自主的に参加していただいて、地域への強い愛着や世代を超えた交流が生まれたところがございます。

右上でございます。人口1,100人の天龍村において、お盆行事の復活継承を進めた事例でございます。

掛け踊りという村の民俗芸能が途絶えかけていたところでございますが、村内外の有志を集結して12年ぶりに掛け踊りを復活して、継承に向けた取組が続いているところがございます。

次のページをお願いします。多様な主体との連携でございます。

加えて、信州アーツカウンシルでは、多様な主体との連携・協働により、社会包摂の取組ですとか、アーティストの滞在制作を後押しするアーティスト・イン・レジデンスの推進などに取り組んでいるところがございます。

次に、6ページをお願いします。信州アーツカウンシル以外の活動について御紹介いたします。

小さいうちから文化芸術に触れ、また表現することでコミュニケーション力や他者の立場で考える力が身につくということで、演劇やダンスといった身体表現や、自由に意見を言い合いながら美術作品を鑑賞する対話鑑賞というアートを活用した学びの実施校の拡大に取り組んでいるところがございます。

7ページをお願いします。社会包摂の取組でございます。

先ほども障害者の方々の作品を見せていただいたところでございますが、長野県においてもザワメキサポートセンターを中心に、障害のある方々の表現や創作の成果を紹介するザワメキアート展を持続的に開催しているところがございます。

8ページをお願いします。地域におけるアーティスト・イン・レジデンスの推進でございます。

県北部にあります大町市で、3年に1回開催している北アルプス国際芸術祭も地域に定着しているところがございます。国内外のアーティストの滞在制作を後押ししているところございまして、現在、第3回が来週11月4日までの会期で開催中でございます。これはかなりの規模で開催しておりまして、地域ぐるみで芸術祭を支える体制を整えて、多くのアーティストや鑑賞で訪れてくださった皆様をもてなしているところがございます。

以上、長野県における文化振興施策の展開について御説明させていただきました。

文化芸術は社会的共通資本ですので、その力を様々な分野に活用、波及させていくことで、我々の地域が持続的に発展できる社会をつくりたいと長野県では考えております。

簡単でございましたが、以上でございます。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、武田名古屋市総務局担当局長、お願いします。

【武田 名古屋市総務局担当局長】

まず初めに、やっとかめ文化祭DOORSについてでございます。

こちらでございます。こちらは本市独自の歴史文化の魅力を一堂に集めたまちの祭典となっておりまして、今年度で12回目の開催となっております。

「やっとかめ」というのは名古屋の方言で「久しぶり」という意味がありまして、このイベント、初めての方、そうでない方も久しぶりに名古屋の様々な文化に触れてもらいたいという意味を込められてございます。

次のページをお願いいたします。具体的なプログラムでございます。

冊子にもございますけれども、一番左上、ストリート歌舞伎ですね、こういったもの。それから、その下のしゃちほこチャレンジ。町なかで伝統芸能を見たり、体感できるまちなか芸披露、それからまち歩きや講座で名古屋の歴史文化を学ぶことができる旅するなごや学、和菓子王国でございます名古屋の和菓子の紹介やイベントを行うなごや和菓子、これらを中心に構成されます芸どころ名古屋を深掘りできる約70の多彩なプログラムを開催しておりまして、昨年度は6万人近い方の参加をいただいております。

引き続きプログラムの内容を充実し、積極的な情報発信に取り組んでいるところでございます。

続きまして、次のところでございます。将棋タイトル戦を契機としましたプロモーションでございます。

本市は、令和2年度に公益社団法人日本将棋連盟と文化振興に係る連携協定に関する協定書を締結いたしまして、将棋文化の普及促進に向けた様々な取組を進めておるところでございます。

本年7月でございますけれども、本市の徳川園で開催されました王位戦第1局の際には、勝負めし、勝負おやつのメニューブックを作りまして、周辺の観光情報などと共に紹介をいたしましたところでございます。

将棋ゆかりの地を巡るウォーキングイベントなどを通じまして市民の将棋の関心を高めるとともに、将棋を活かした観光誘客プロモーションや都市の魅力向上を目的とした取組を実施しておるところでございます。

次のスライドをお願いいたします。

3つ目は、名古屋フィルハーモニー交響楽団、通称名フィルでございます。

この交響楽団、1966年の創立以来、名古屋地域の音楽文化の普及向上を図っておりまして、文化の発展に先導的な役割を果たしてございます。いろんなコンサートの中で、一流アーティストを市民に触れる機会を提供してございます。

今、日本有数のオーケストラの一つとして、名古屋市を中心に東海地方の音楽界をリードする存在となっておるところでございます。

次のページをお願いいたします。

最後に、サードプレイスあふれる、居心地が良く歩きたくなる、ウォーカブルなまちづくりでございます。

本市では、居心地良く歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを進めておりまして、昨年度にはNagoyaまちなかウォーカブル戦略を策定いたしましたところでございます。

ウォーカブルなまちづくりのための取組の一つといたしまして、にぎわいの場としての公開空地などの再生を行っております。名古屋都心部での沿道と界隈の活性化を進めてございます。

こうした取組などを通じまして官民のパブリック空間をウォーカブルな空間として活用することで、まちなかに居心地のよい特別な場所、サードプレイス、こういったものを広げ、ウォーカブルなまちなかを形成しているところでございます。

人中心のウォーカブルなまちなか、これを新たな都心文化として人々の出会いや交流、新たな付加価値、イノベーションを生み出すことで、まちの活力、魅力向上につなげてまいります。

名古屋の取組は以上でございます。ありがとうございます。

【古田 岐阜県知事】

はい、ありがとうございます。

各県・市それぞれ多彩な活動をしておられますが、以上につきまして、特に御意見、御質問等ございましたらどうぞ。

特によろしいでしょうか。

ちょっと私の不手際で随分時間を押しておりますけれども、いろいろお話の中で、この連携協力という意味では、発酵文化について愛知県知事から、愛知・岐阜・三重の連携のお話もございました。

それから私どもが承知している感じでは、観光庁が山岳観光といいますか、山岳文化ということで、例えば松本高山Big Bridge構想というのが今いろいろじわじわと動いておりますし、それから白山観光文化ということで白山周辺の地域の協力ということもあるでしょうし、県境を超える、そういう意味での新しい連携というのはあり得るかなと思って伺っておりました。

それから福井県さんとよく議論しておりますけれども、武将観光ですね。これは福井、岐阜、愛知とつながる話でもありますし、それから共通して感じたのは、子どもを大事にする、あるいは障害者のアール・ブリュットを大事にするということもございましたし、こういったことについてはやはり共通の問題意識があるのかなということで、いろいろと私自身も大変参考になりましたけれども、今日伺った話を手がかりに、また自らも磨きな

がら、いろんな連携の可能性を追求してみたいなと、こんなふうにした次第でございます。

こんなに時間がかかるとは思っておりませんで、ちょっと不手際でございましたが、以上で議事を終わらせていただきたいと思います。

恐らく、次に観光というテーマを掲げたら何時間もかかるんじゃないかなと、そんな感じでございますが、そういうセッションもあっていいんじゃないかなと思っております。

それでは、宣言文としてお手元に「地域に根ざした文化の創造と継承に関する宣言」という、これは既に事務的にはお諮りしておるところでございますけれども、この宣言をもってこの議論の一つのまとめとしたいと思っておりますが、よろしゅうございますか。

〔「はい」の声あり〕

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

はい、（馳知事、）どうぞ。失礼しました。

【馳 石川県知事】

私も、この今のセッションをやる前まではこのままでいいと思ったんですが、大変見識の深い皆さんの御意見を拝聴して、私、今から言うことをちょっと4点ほど、できたら修正いただきたいなと思ってちょっと申し上げます。

前文の5行目、「中部圏は日本の東西文化の接点に位置する地理的」とありますが、私は皆さんの御意見を伺って「地政学的」といった方が極めて意義深い表現になるのではないかと思います。地政学的。

それから、宣言の2、「国内のみならず」、次に「文化安全保障の観点から」と入れてはいかがかと思いました。というのは、私どもの文化観光も含めて緊張緩和を目指しているわけでありますから、文化安全保障という観点は非常にグローバルな交流に資する考え方だと思いました。

3点目は、「地域の伝統芸能をはじめ、地域固有の食文化」を入れていただきたいと思いました。

というのは、文化庁は既に昨年、文化観光推進本部と食文化推進本部の2つの本部をもって文化庁を京都に移転してスタートしておりますので、「食文化、文化財等の保存活用を図る」というふうにはいかがかと。

最後、4点目は、「文化行政の推進に当たっては、都道府県、市町村」と、都道府県を入れていただくとですね、実は私もまさか京都が乗ってくるとは思っていませんでしたが、京都と文化連携協定を結んで、私どもはどちらかというと石川県は武家文化なんです、京都の公家文化と融合することで極めて大きな可能性といたしますか、新たな発見や創造が出

てまいりました。

ぜひ都道府県をまたいで、私も岐阜県と石川県の文化連携協定に非常に触発を受けておりまして、これぜひ都道府県というふうにしていただけたらいいんじゃないかなと、以上、提案をいたします。

【古田 岐阜県知事】

貴重な御意見をありがとうございました。

以上につきまして、御意見ございますか。

【馳 石川県知事】

調整していただければ結構です。

【古田 岐阜県知事】

そうですね、はい。

「文化安全保障」という言葉をどのように理解したらいいのかというところで、場合によっては文章を考えさせていただきます。それでは御意見を踏まえた修文については、恐縮ですけどまた御相談をいたします。

【馳 石川県知事】

一任いたします。

【古田 岐阜県知事】

よろしく願いいたします。

では、そういう前提で採択ということでよろしゅうございましょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございます。

それでは、文字どおり1分以内でお願いしたいと思いますが、その他ということで、愛知県知事から「ツーリズムEXPOジャパン2025 愛知・中部北陸」について御発言希望がございます。よろしく申し上げます。

【大村 愛知県知事】

簡潔に申し上げます。

ツーリズムEXPOジャパン、いつも東京ビッグサイトでやっているやつでございますが、

地方では大阪、沖縄で行いましたが、いよいよ来年9月に私どもの愛知県Aichi Sky Expoで開催ということになりました。中部圏で初めて開催いたしますので、「ツーリズムEXPOジャパン2025 愛知・中部北陸」というふうに銘打ちました。

今年9月の東京開催では18万人を超える来場があったビッグイベントでございます。各県さんも、我々もそうですが、ブースを出しております。なので、主催者からはやはり中部である以上は愛知、地元でブースを増やしてねと言われておりますので、私どもは倍増以上、地元の企業も入れると3倍ぐらいに増やしますが、併せてこの9県が連携した共同出展で中部圏を大きくアピールしたいと思っております。

なので、今、事務的にも各県さんをお願いさせていただいておりますが、この共同出展につきまして、中部圏として共同出展ブースを出すことで、また中部圏域の知名度を上げてインバウンド、国内外からの誘客の促進につなげていきたいと思っておりますし、広域周遊の広域観光を図っていきたいと思っておりますので、ぜひとも御理解、また御協力をお願いいたします。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございました。

あと、私からも1点だけ。岐阜県の資料がございますが、先週、知事会として国、これは農水省ですね、そしてジェトロと連携協力をして初の海外プロモーションを行いました。

パリの「SIAL Paris 2024」ということで、ここは130の国と地域から7,500団体が集まってくるということで、会場の広さは後樂園（球場）の6倍から7倍ということで、28万5,000人の業界関係者が来場ということでございました。

これは世界最大規模で2年に1回のものでございますが、ここにありますように、中部6県を含む全14県が参加をいたしまして、それぞれプレゼンをやり、そのほかにサイドイベントということで特別にオール岐阜、オールジャパンとしてプレゼン、キャンペーンを別途またその会場でやったということでございまして、これはこれで非常にまとまってアピールできてよかったのではないかとということで、知事会長は、これは来年、再来年以降もいろいろ場所を考えながら続けていきたいということで、初の海外プロモーションとしては大変よかったのではないかとという評価をしておられました。

それから、次のページが、せっかくでありますので、在仏の日本大使館の公邸で中部5県を含む6県が参加をいたしまして、それぞれ観光とそれから食のキャンペーンをやりました。三重県さんは特に忍者ショーをやっただいて、大変好評を博しておりました。

これも大使館も積極的に協力していただきまして、中部圏の魅力を十分アピールできたのではないかなと、そんな感じがしておりますという御報告でございます。以上でございます。

それから、各県・市からのPR事項でございますけれども、机上配付ということで口頭での説明は省略させていただきますのでよろしくお願いたします。

最後に、来年春に開催します122回会議につきまして、次回は申合せにより愛知県にお願いすることになっております。大村知事からそれについて御挨拶をお願いいたします。

【大村 愛知県知事】

一言申し上げます。

来年春の中部圏知事会議、愛知県での開催でございます。今のところ、6月上旬に開催する予定で調整をさせていただきたいと思っております。準備を整えましてお迎えしたいと思います。

そして、併せまして先ほど冒頭申し上げましたが、明日10月31日、日本最大のスタートアップ支援拠点STATION Aiがグランドオープンいたします。

スタートアップ500社、一般パートナー企業200社でスタートいたしますが、ぜひこのSTATION Aiを、もうフル稼働しておりますので、来年6月にこれを御覧いただければと思います。

それからもう一つ、名城公園に愛知県体育館を今移転新築いたしております。来年3月には日本と申しますか、アジア最大のアリーナ、IGアリーナが完成いたしますので、馳さんなんかは愛知県体育館を昔たくさん使っていただきましたけど、御興味があればまた個別に御覧をいただければと。

今のところ、まだプロレスの日程は入っておりませんが、来年7月の大相撲名古屋場所こけら落としで両国国技館よりもはるかに大きいもので、たくさんの観客を入れる敷も両国よりも大きくいたしますので、また御覧をいただければと思っておりますが、お待ちしております。ありがとうございます。以上です。

【古田 岐阜県知事】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第121回中部圏知事会議を終了させていただきます。

かなり時間を押ししましたが、御協力いただきまして無事終了することができました。改めて感謝申し上げます。

それでは、事務局にお返しします。

【青山 愛知県政策企画局長】

ありがとうございました。